

ハラスメントのないスポーツ組織に向けて

——大学運動部における「女子マネージャー」の日加比較研究——

○大阪府立大学 関めぐみ

1 目的・方法

本研究の目的は、性別隔離 (gender segregation) されたスポーツ組織における、セクシュアル・ハラスメント (以下、「セクハラ」) のない対等な関係性構築をめざした組織構造の変容可能性と限界を明らかにすることである。具体的には、男子大学運動部における「女子マネージャー (以下、「女子マネ」) 」のあり方に焦点をあて、参与観察を中心としたフィールドワークやインタビュー調査の結果をもとに考察をおこなった。

2 調査対象・分析視点

調査対象は、国内の2大学及びカナダの1大学のアメリカン・フットボール (以下、アメフト) 部と、そこに所属する「女子マネ」 (カナダの場合はセラピスト) とした。

男同士の関係構造を「ジェンダー規範 (権力関係)」と「セクシュアリティ規範 (性的関係)」の2軸で捉えたセジウィックの「ホモソーシャリティ (homosociality)」概念を分析視点として、組織の「共時的で図式的な構造」を示すとともに、「通時的で物語的な構造」を描くことでその変容を描いた (Sedgwick 1985=2001)。

3 結果

分析の結果、カナダの事例では、組織構造が「[セラピスト] 結合型」ホモソーシャリティであったことを明らかにした。そもそもカナダでは、「女子マネ」が存在せず、代わりに「女子マネ」の中でも専門性の高い「トレーナー (ケガや故障の予防と応急措置, トレーニング指導などの担当者)」に近い役割が「セラピスト」として存在していた。カナダではセラピストは、アメフト部に「入部」という方法をとらず、大学の診療所に所属し、そこからチームに派遣されていた。そして活動内容は、ジョブディスクリプションに明文化されており、〈専門家〉として位置付けられていた。また、州や大学が、セラピストと選手の権利を保障するためのガイドラインを明確にしており、部内恋愛が全面的に禁止されていた。さらに、大学ではそれらの権利について繰り返し教育する制度が整っており、また、国レベルで部活動の時間が制限されることで、長時間の拘束がないことも明らかとなった。

このように、セラピストと選手が対等な「部員」とみなされるのではなく、選手を中心に「コーチ」「医療スタッフ」「サポートスタッフ」などのそれぞれの専門家たちが結合してチームに位置づけられていたと考え、「結合型」と名付けた。

4 結論

以上で明らかとなったカナダのチームの組織構造を日本のチームと比較することで、性別隔離されたスポーツ組織のあり方そのものが「女性蔑視 (ミソジニー)」や「同性愛嫌悪 (ホモフォビア)」を生み出していることを指摘した。そして、セクハラのない対等な関係性構築のために、「女子マネ」の「専門性の強化」及び「制度的保障」が急務であることを結論とした。

文献

Sedgwick, Eve Kosofsky, 1985, *Between Men: English Literature and Male Homosocial Desire*, New York: Columbia University Press. (=2001 上原早苗・亀沢美由紀訳『男同士の絆——イギリス文学とホモソーシャルな欲望』名古屋大学出版会.)